

平安京左京六条二坊九町跡・烏丸綾小路遺跡 発掘調査現地説明会資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
2018年7月28日

所在地：京都市下京区醒ヶ井通松原下る篠屋町59（元京都市立醒泉小学校）

調査期間：2017年10月10日～2018年8月31日（予定）

調査面積：約2900㎡（現在2区を調査中。1・3区は終了、4区は7月末から調査予定）

はじめに

今回の調査は、京都市立下京雅小学校等施設整備工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査です。当地にあった醒泉小学校は、現在地の南西側に明治2年に開校された下京第十三番組小学校が始まりとなり、明治6年に旧園部藩邸があったここに移転します。また調査地は、平安京左京六条二坊九町跡及び弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸綾小路遺跡にも含まれています。今回は、現在調査中の2区（約2000㎡）を中心に、調査の成果について説明します。

見つかった遺構・遺物

・江戸時代：調査区西部で大型の掘立柱建物が見つかりました。また、大量の焼土を伴う瓦の処理土坑も見つかりました。この瓦と焼土は、元治元年（1864）に起こった禁門の変（蛤御門の変）の際の火災（どんどん焼け）に伴う遺物です。

・室町時代から桃山時代：調査区中央部から西部で大規模な土取り土坑群が見つかりました。これは壁土などの建築資材としての土を採掘した跡です。また、調査区中央部の楕円形の土坑からは、ベンガラの原材料となる赤土の固まりが見つかりました。

・鎌倉時代：土蔵と見られる建物、大型の方形井戸、大型土坑、区画溝などが見つかりました。

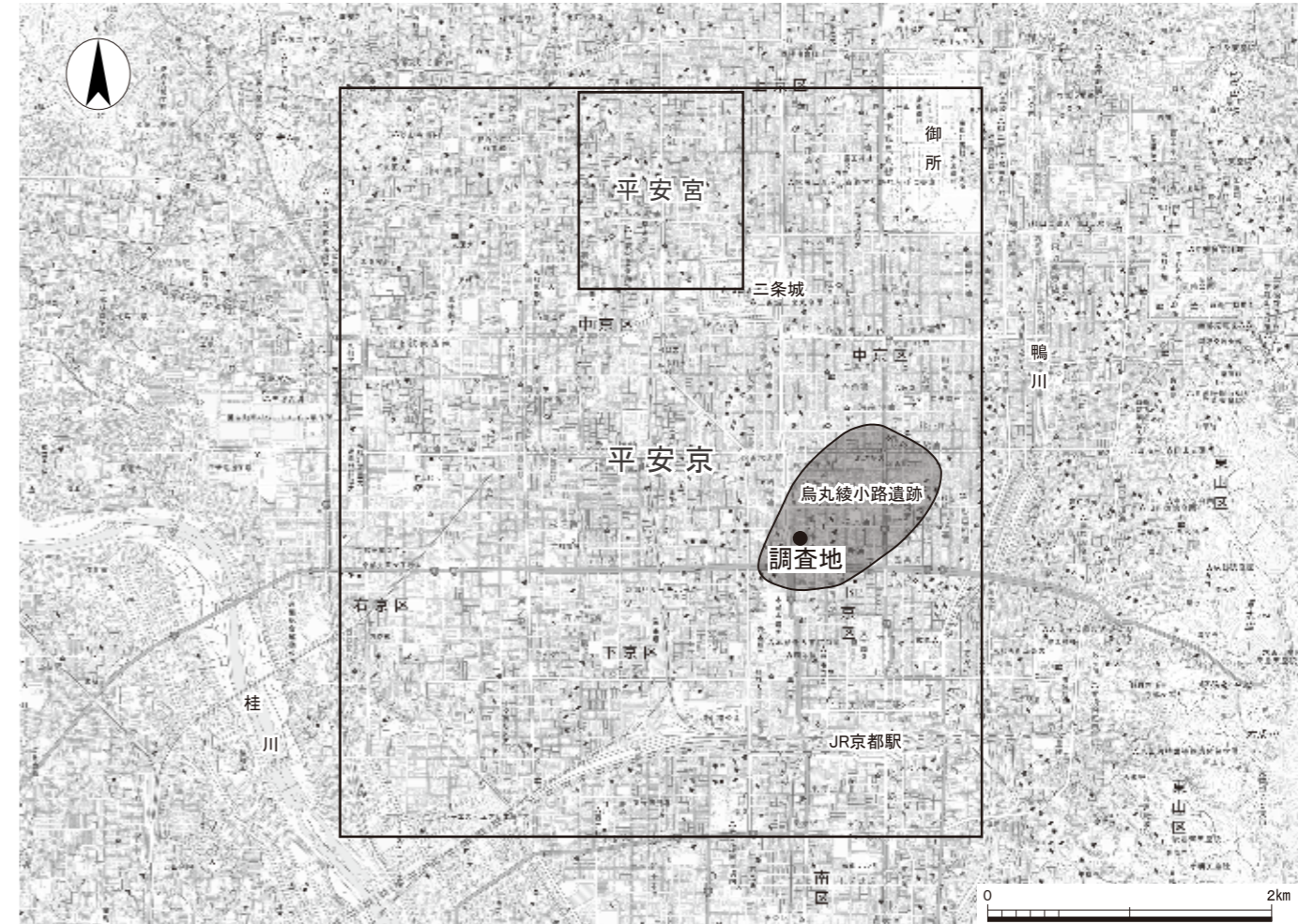
・平安時代：井戸や溝が見つかりました。平安時代前期の井戸からは「政所」（貴族邸宅に設けられた家政機関）の文字を記した緑釉陶器が出土しており、身分の高い貴族の邸宅が存在したことがうかがえます。

・弥生時代：調査区西部で弥生時代中期後半（紀元前100年頃）の方形周溝墓が見つかりました。溝の一边は10m以上あり、南・東側の溝からは土器がまとまって出土しました。また、調査区西部と南部では、弥生時代中期初頭（紀元前400～300年頃）の竪穴建物、調査区東部では北東から南西方向に流れる流路が見つかりました。竪穴建物や流路からは、多数の土器や石器が出土しています。流路は、昭和59年の体育館建設に伴う調査でも見つかっています。3区で検出した流路の西肩を含めると、全体で約80m分を確認しました。

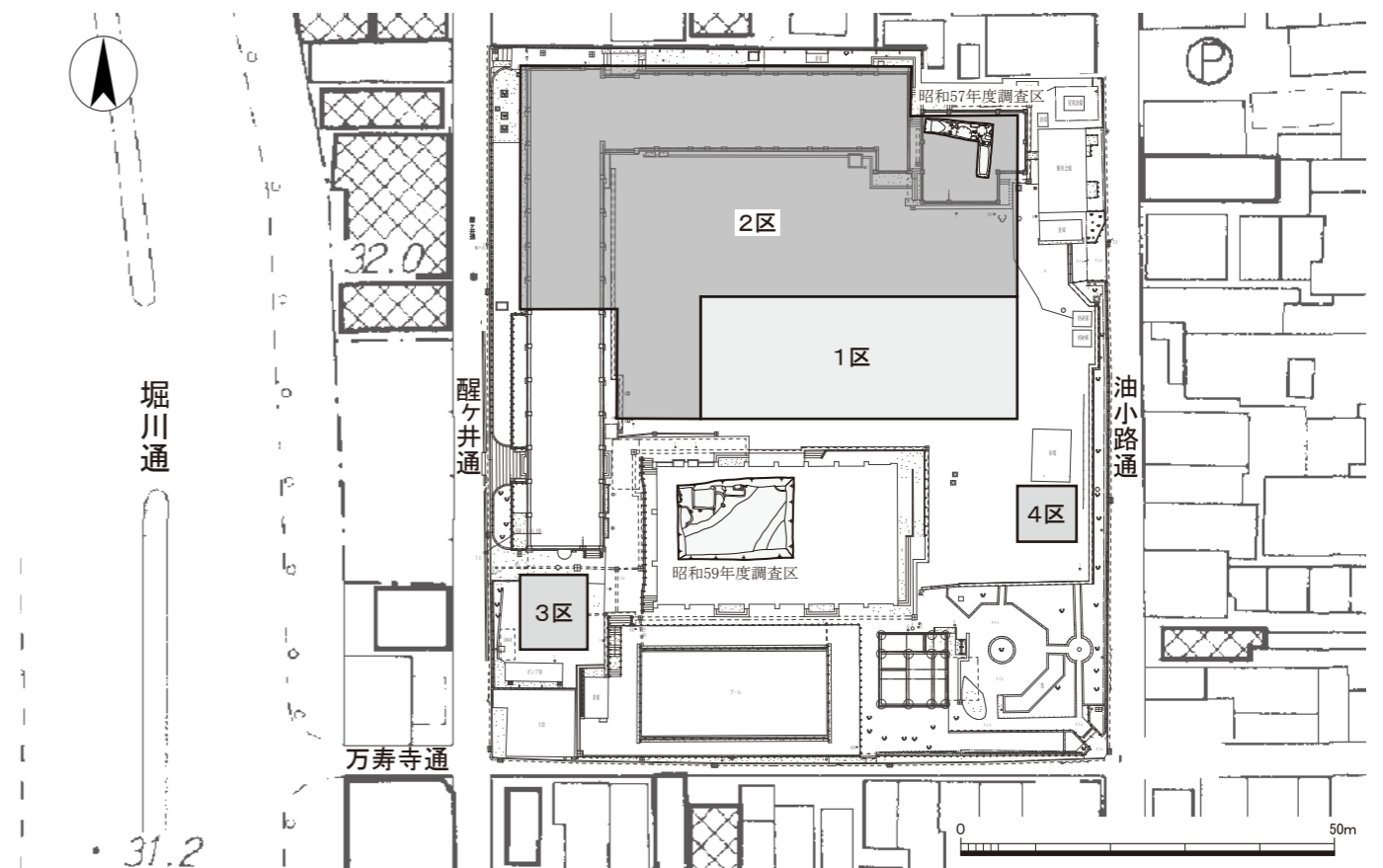
遺物は、土器や石器が多数出土しました。土器の器形には甕・壺・鉢・高杯・蓋などがあります。石器の種類には石庖丁・石鏃・石戈・石斧・管玉などがあります。製作途中の未製品や石屑、製作工具である石錐・石鋸・砥石があることから、石器の製作や玉づくりが行われていたと考えられます。

まとめ

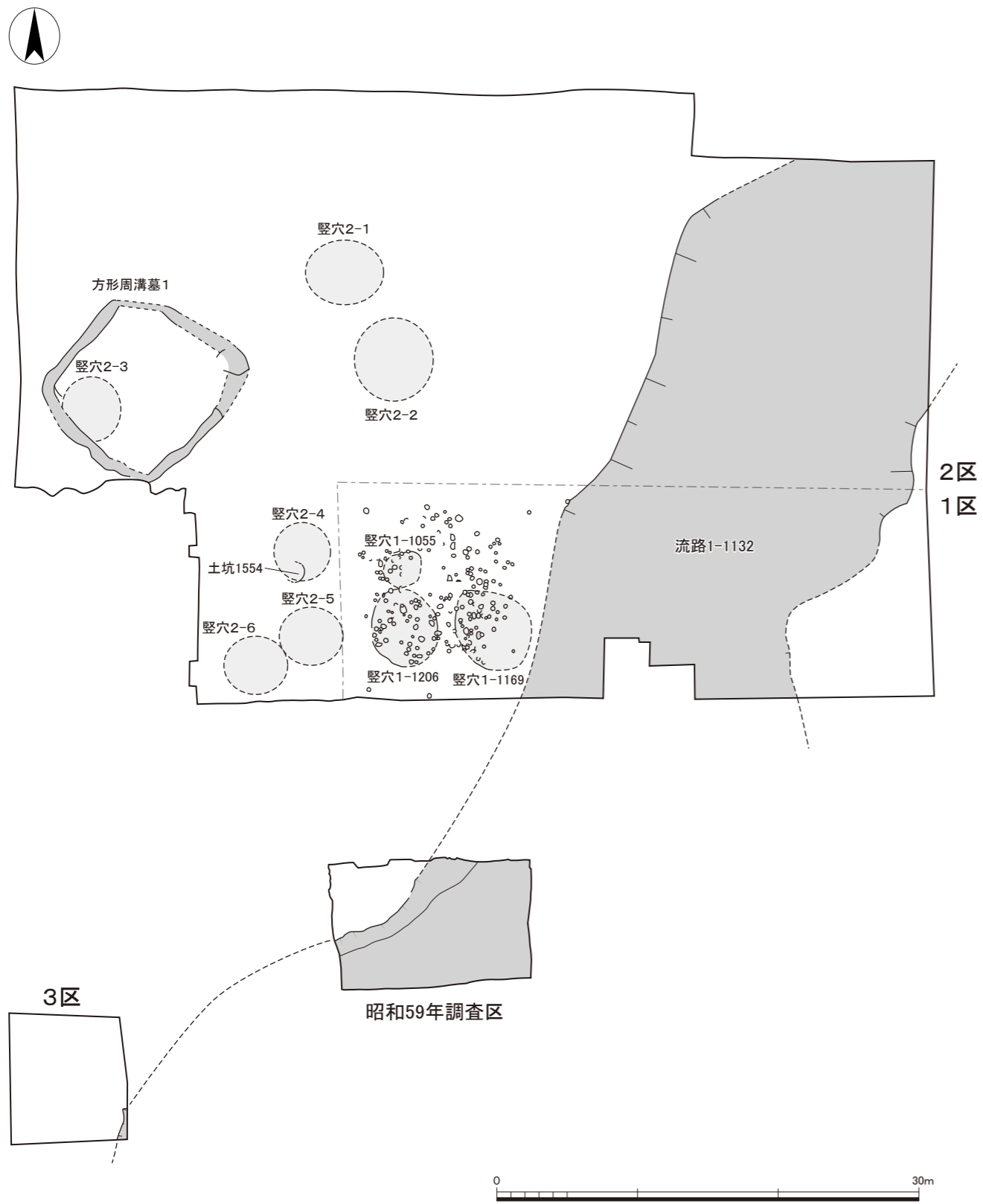
今回の調査では、弥生時代から江戸時代に至るまでの人々の営みを示す遺構・遺物が確認できました。特に弥生時代中期初頭の集落遺跡は京都盆地では珍しく、竪穴建物や流路、またそこから出土した土器・石器などは、人々の暮らしを具体的に示すもので、これらが発見したことは大きな成果といえます。



調査位置図(S=1:50,000)



調査区配置図(S=1:1,000)



1区全景(東から)



2区流路 弥生土器出土状況(東から)



2区土坑1554 弥生土器出土状況(北東から)